

## 『歴代寶案』校訂本第十五冊の刊行に際して

沖縄県教育委員会教育長 平敷昭人

沖縄県は、かつて琉球王国として、中国（明・清）との冊封・朝貢体制を軸に、その地理的優位性を發揮してアジア諸国と交易し、大きな影響を受けながら、独自の歴史・文化を形成してきました。十四世紀から約二〇〇年の間、琉球は中国、日本、朝鮮、シャム・パタニ（現在のタイ）、マラッカ（現在のマレーシア）、スマトラ・パレンバン・スンダ・ジャワ（以上現在のインドネシア）、安南（現在のベトナム）等の国々に船を派遣し、各地の産物を中継する交易を展開し、東アジアの一大貿易拠点として発展しました。

『歴代寶案』は、琉球がこれらの諸国と交わした一四二四～一八六七年までにわたる外交文書を集成したものです。王府は、長く久米村の天妃宮に保管されてきた外交文書の破損・散逸を危惧し、外交を専任する久米村にその編集を命じました。こうして一六九七年に第一集四九卷（一四二四年～一六九七年までの文書を収録）が二部作成され、王府と久米村にそれぞれ保管されることになりました。その後、一六九七年～一八六七年までの文書が第二集二〇〇卷・第三集一三卷として編集され、ほかに別集八冊（うち第二集目録四冊）が現存しています。王府に保管された『歴代寶案』は廃藩置県の際に明治政府に引き継がれたとされていますが、その所在は依然として不明です。一方、久米村に保管されたものは、一九三三年（昭和八年）に旧県立図書館に移管されましたが、去る沖縄戦で散逸し、影印本と写本が数種残されただけです。

『歴代寶案』はおよそ五百年にわたる外交関係文書を収録し、沖縄の対外通交貿易史および外交関係史を解明するうえで第一級の同時代史料です。沖縄県はこの膨大かつ難解な漢文史料を校訂し、訳注を作成して、利用しやすしい形に編集することによって、今後の歴史研究に役立て、あわせて一般への普及をはかり、国際化時代における沖縄県発展の基礎資料とすることを目的に、平成元年度（一九八九年）から現存する影印本と写本をもとに『歴代寶案』校訂本・訳注本の編集事業に着手し、平成三年度から刊行を開始しました。これまでに校訂本十四冊、訳注本九冊を刊行しました。

本年度は、校訂本の最後となる第十五冊を刊行することになりました。本書には、第三集（一八五九～一八六七年の間の文書を収録）のほか、別集嘒嘆情状（一八四四～一八四七）・別集嘒嘆唾三国情状（一八四六～一八五五）・咨集文組方（一七七三～一七八四）・冠船之時唐人持来候貨物録（一七一九）および二集歴代寶案目録（乾坤）が収録されています。内容としては、中国皇帝への進貢・接貢・謝恩、琉球船や中国船等の漂流・漂流民の送還、咸豊帝の崩御・同治帝の即位、尚泰の冊封に関する文書のほか、フランス・イギリス・アメリカ等の異国船の琉球来航と宣教師ベッテルハイムの琉球逗留をめぐる問題、太平天国の内戦により北京への進貢路を阻まれ、進貢を断念せざるを得なくなった琉球使節など、従来の伝統的な冊封朝貢体制が崩壊していく状況と、その中で翻弄される琉球の姿がかい間見えてくる文書等が収録されています。

最後に、本書の刊行につきましては、沖縄県歴代宝案編集委員会および同作業部会の御協力を得ました。また校訂を担当された西里喜行先生をはじめ、関連史料を所蔵する国内外の各機関の御協力に深く感謝するとともに、『歴代寶案』編集事業に一層の御理解と御協力をたまわりますようお願い申し上げます、発刊のことばといたします。

平成二十八年（二〇一六）十二月